



つなぐ・つながる

すべての人のしあわせと、サステナブルな未来を。

# 生物多様性関連への取組み

2025年10月10日

損害保険ジャパン株式会社

カルチャー変革推進部サステナビリティ推進グループ

加藤拓

# 自己紹介

## 加藤 拓

### サステナビリティに関する経歴

- ・カルチャー変革推進部サステナビリティ推進グループ 2024年～
- ・経営企画部サステナビリティ推進グループ 2023年
- ・経団連自然保護協議会 事務局出向 2021年～2023年

### その他の経歴

営業本部

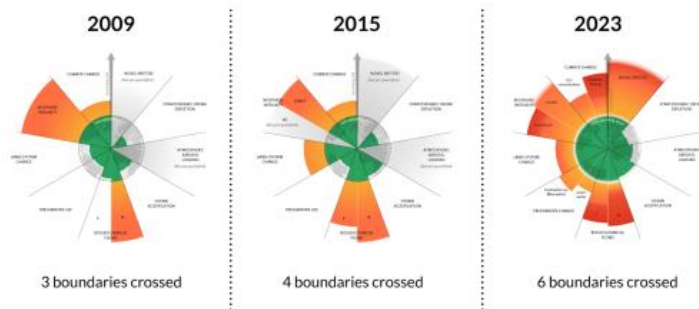
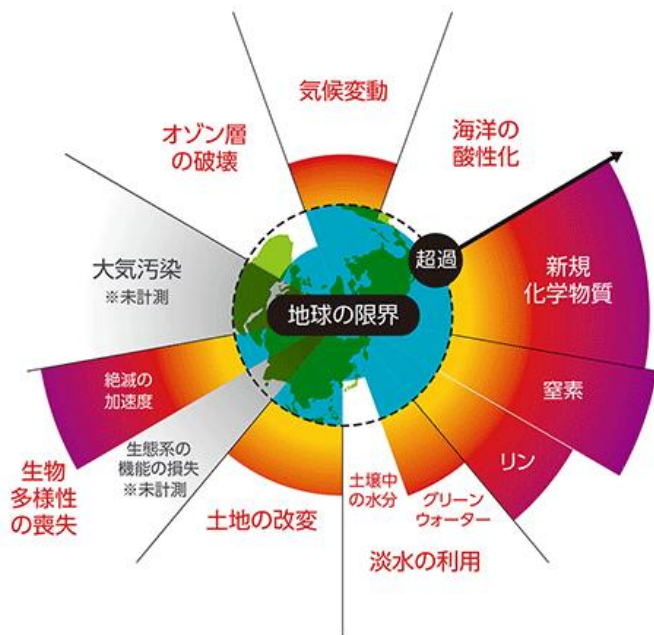
企業マーケット開発、法人営業

日本財産保険（中国）有限公司出向、など



# なぜ企業が環境配慮に取り組む必要があるか

- プラネタリーバウンダリー：地球環境が許容できる限界を9つの最重要プロセスを科学的に分類。現在 **6つが危機的状況**で、安全な領域から大きく外れている。⇒最新のレポートでは7つ！



- 自然への依存：自然を喪失すると、**世界のGDPの約半分**にあたる44兆ドル（約4,700兆円）の経済価値を喪失\*。
- 事業のレジリエンス：気候変動による自然災害の増加、水や自然資本の不足は、**事業基盤に大きく影響**。

\*世界経済フォーラム（WEF）

“The Future of Nature and Business”報告書（2020）より

([Current status of control variables for all nine planetary boundaries](#).をもとに作成)

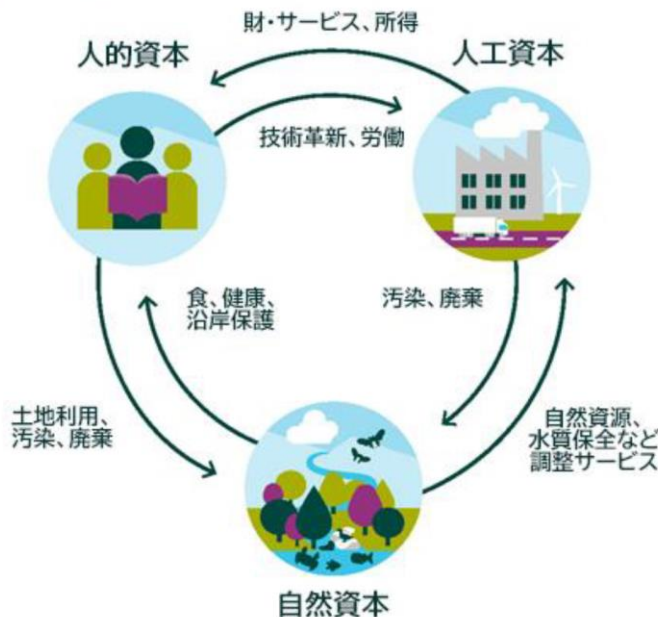
# なぜ企業が環境配慮に取り組む必要があるか

図3. 生物多様性から経済へのつながり



- ダスグプタ・レビュー（生物多様性の経済学）：英国政府財務省が2021年2月に公表した人間の経済活動と自然生態系との関係に関する報告書。
- 自然資本の価値を経済活動に反映させ、**自然資本・人工資本・人的資本の3つをバランスよく保ち、包括的な富を最大化することを目指す**べき。

図6 3つの資本の相互作用



損害保険

社会課題  
(困りごと) の解決

SDGsの  
理念との親和性



- 1888年東京火災創業（創業から135年）
- 江戸の火消しの心意気が創業精神（お客さまを守る／街の課題を解決する）
- 東京火災消防組は国から正式認可された唯一の私設消防組



鳶口（とびぐち）  
延焼を防ぐために家屋を壊す道具



東京火災の徽章



金閣寺に現存する  
「鳶口マーク」  
（現在取り外して保管中）

# 地球環境に対する損保ジャパンのリーダーシップ



損保ジャパンは、経団連 企業行動SDGS委員長、経団連自然保護協議会長、企業市民協議会長を輩出

## 最新動向を先取り

### 1992年 リオの地球サミット



経団連ミッションの団長として社長（当時）が参加  
サイドイベント（ジャパンデー）に登壇

### 2012年 国連持続可能な開発会議（リオ+20）



サイドイベント（国連グローバル・コンパクト）に会長（当時）が登壇し、グループの取組みを発信



## 「リーダーシップ」と「対外的なプレゼンス」

### 2022年 CBDCOP15@カナダ・モントリオール



西村明宏環境大臣（当時）との対談

### 2024年 CBDCOP16@コロンビア・カリ



サイドイベント（UNDP）で、経済界の寄付で支援している SATOYAMAイニシアティブ（COMDEKS4）の取組み内容について発信

2021年の前中期経営計画と同時に「SOMPO気候アクション」を公表  
適応や緩和への取り組みだけでなく、「社会のトランスフォーメーションへの貢献」に注力

## SOMPO気候アクション

### ①気候変動への「適応」

協働を通じた商品・サービスの開発・提供により、社会のレジリエンス力向上を支援

### ②気候変動の「緩和」

グループの温室効果ガス  
排出量ネットゼロ\*実現  
(2050年)

\*残余排出は国際的に認められる方法でのオフセット

### ③社会のトランスフォーメーションへの貢献

NPOなどのステークホルダーとの協働や金融機関としてのエンゲージメントを通じて  
社会の移行に貢献

ステークホルダーとともに、人と自然が調和した包摂的でレジリエントな  
カーボンニュートラル社会を実現

## ■ Other effective area-based conservation measures

国立公園等の保護区ではないものの、生物多様性を効果的に保全しうる地域のこと

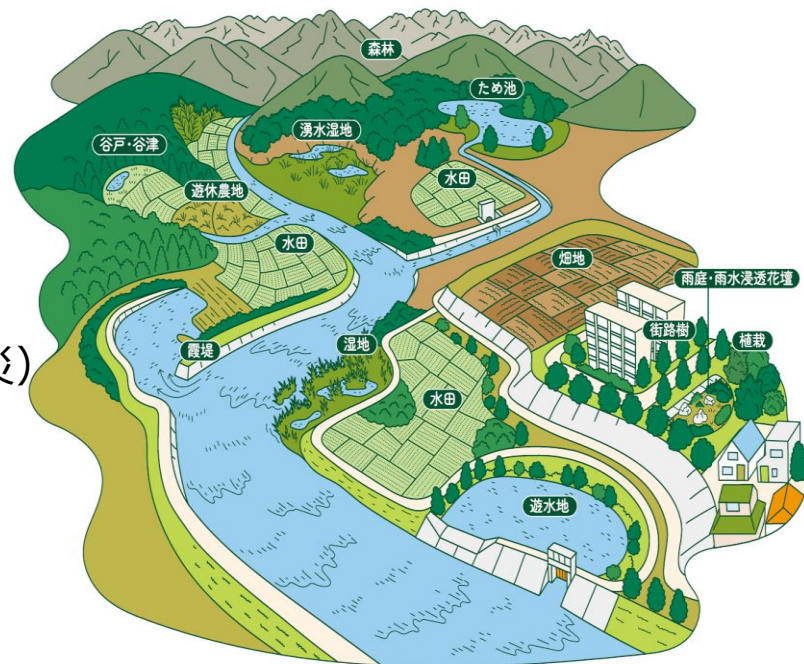
## ■ 「30 by 30」

2030年までに陸域・海域をそれぞれ30%以上  
保全するという目標



損保ジャパンは、環境省が運営する、OECM登録推進に賛同する連合体、  
「30 by 30 アライアンス」に加盟しています。

- 損保ジャパンはEco-DRR（生態系を活用した防災減災）の普及とネイチャーポジティブに向けて、自社のほか企業や自治体のOECM申請を支援し、  
**OECM100か所の登録**を目指します。



<https://www.sompo-hd.com/csr/materiality/topic4/>

## ■ SAVE JAPANプロジェクトとは

日本NPOセンター等と協働で生物多様性保全活動を行うプロジェクト。  
Web証券・約款や自動車事故時にリサイクルパーツを選択いただくことで  
削減したコストの一部を原資として2011年にスタート。



## ■ 2023年度から以下のプロジェクトを支援

「Eco-DRR（生態系を活用した防災・減災）」の浸透・促進に資する活動支援  
「自然共生サイト」への申請プロセスの支援

## ■ 自然共生サイトに認定されたプロジェクト例（2024年度3件）



蒜山高原鳩ヶ原草原及び周辺湿原（岡山県、蒜山自然再生協議会）  
背丈の低い希少植物に太陽の光を当て、生育を促すために、草刈りを実施



尾無の湿地（左）中津干潟（右）（大分県、NPO法人水辺に遊ぶ会）  
生息するベッコウトンボ（左）カブトガニの保全を学ぶ子供たち（右）





- 自治体の自然共生サイトに企業を集めて、自然資本の活用や企業のマッチングを実施（神戸市）。
- 地域の生物多様性戦略の普及啓発と、生物多様性に関する企業活動におけるNPOとの連携事例を紹介するセミナー（静岡県）。

# ネイチャーポジティブ経営を 神戸の里地里山を見て考える

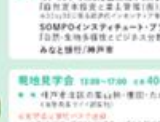



フォーラム  
緑地見学会

## 2024.10.9\*

「カーポムニュートラム」の表は「ネイチャーポジティブ(NP)」を研究し普及させる活動があると言われています。NPとは、生物多様性の喪失を減らし、気候変動による影響を減らすこと、これを2030年までに達成することが、世界目標として国連の生物多様性条約の目標15(自然資源の持続可能な開発目標15)で規定されています。また、TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)は、企業や投資家や金融市場の透明性を高め、気候変動と生物多様性に関するリスクを統合的に評価し、経営戦略に開示するための国際的な開示枠、経済活動をNPにワンプラスする上で必要となります。

国際社会で企業が生き残るためにNPをどのように推進すべきか「国連のターゲット15に貢献する神戸の里地里山(自然資本)」とTNFDとの関係はこのフォーラムと見学会で考えてみましょう。

本プログラム

**フォーラム** 10:00~12:00 定員100名
 

- ① 神戸市中央区役所 2-2  
又、会場などにより神戸市中央区役所へ
- ② 神戸大学 人間環境学研究院 地理環境棟1階  
[自然資本投資と企業責任(表)]  
③ TNFDに関するディスカッション  
SDMP(サステナビリティ管理プラットフォーム)  
④ 自然・生物多様性でSDG15の貢献活動(表)]  
みなと銀行/神戸市

**緑地見学会** 12:00~12:30 定員40名
 

- ① 神戸市中央区の山(緑地)を見学
- ② 見学会終了(12:30)
- ③ 会場まで(徒歩15分)
- ④ 会場受付(受付12:30)
- ⑤ 受付終了(12:30) 会場へ(徒歩15分) 会場受付(会場まで)
- ⑥ 会場受付(会場まで) 会場受付(会場まで)

**申込** 神戸市イベント申込サイト  
<https://event.kobe.lg.jp/season/2024/2024np1009/>  
 ① 申込受付期間: 9/10~9/20  
 ② 申込受付時間: 9/10~9/20 10:00~17:00

**申込** 9月20日(金)





神戸市

環境政策課



みなと銀行



自然資本

お問い合わせ 神戸市環境局自然環境課

TEL: 078-801-4214 FAX: 078-804-4214

E-mail: [shinonaka@city.kobe.lg.jp](mailto:shinonaka@city.kobe.lg.jp)

# ネイチャーポジティブ経営を 神戸の里地里山を見て考える

## Coming soon! 2025

### 2025.11.19(水)

※荒天等の場合、予備日は延期します  
予備日：12月12日(金)

「カーボンニュートラル」と並び、「ネイチャーポジティブ（NP）」を経営に取り込む機運が高まっています。NPとは、生物多様性の損失を防止して反発するという概念であり、これを2030年までに達成することが、世界目標として国連の生物多様性条約の国連会議（COP15）で明文化されています。また「TNO（自然関連財務情報開示タスクフォース）」は、企業が自然資本や生物多様性に関するリスクや機会等を適切に評価し、投資家等に開示するための国際的な枠組で、経済活動をNPにシフトする上で注目されています。

国際社会で企業が生き残るためにはNPをどのように推進すべきか？国連のデータベースに登録した「神戸の里地里山」をフィールドに学びたい。TとNPとの関係は？この見学会とフォーラムとで考えてみましょう。

里山管理や環境学習の拠点が新しくオープンします！

※完成イメージ

### スケジュール

#### 現地見学会 13:30～15:45

場 所：元元通 神戸市長 三旗博  
場 所：神戸市北区の里山里山・棚田・ため池  
(自然共生サイト認定地)

#### フォーラム 16:00～17:30

場 所：KOBE里山自然共生センター  
講 義：東北大学 藤田浩 教授  
「ネイチャーポジティブ新潮流」  
SONOPIEインスティテュート・プラス  
鈴木大 上席研究員  
「自然・生物多様性とビジネス分野の最新動向」

神戸市 副市長 黒田慶子  
「日本にとってのネイチャーポジティブとは」  
～資源循環で保たれた生物多様性～

みなぎ銀行 神戸市

※資料1冊で送迎  
(往路12:45発、復路18:00頃 いずれも三宮駅周辺発着予定)

主催 協賛

神戸市 SONOPIE

お問い合わせ 神戸市環境局自然環境課  
TEL:078-595-6216 FAX:078-595-6254

定員 40名（1社2名まで）

申込 神戸市イベント申込サイト →  
※応募多数の場合抽選

締切 11月5日（水）



令和6年度 じぶのくに生物多様性地域戦略推進パートナーシップ協働会

～将来にわたって自然と人が共生できる静岡県に～

# 企業が生物多様性の保全活動に 取り組む意義

2030年までに、地球上の陸と海の30%以上を健全な生態系として保全する「30by30」達成に向けて、企業が積極的に関与していただくことで、静岡県でも持続可能な生物多様性の保全活動を推進するため、企業と環境保全協会が「じぶのくに」に生物多様性地域戦略推進パートナーシップ制度を実施中です。本セッションでは、企業・環境協会の両者が連携して生物多様性の保全活動を行う意義について具体的な事例から学びます。

日程 2024年12月5日

13:00～16:30 (開場 12:30)

場所 さんしんみうくろ三ホール附

〒411-0036 静岡県三島市一帯町2-29

定員 100名

参加費 無料

申込  
方法  
TEL 11/290

下記いずれかの方法で  
申し込みください  
①申込フォーム  
②FAX/下記に宛先を記入  
したメール/otsu@seedinc.jp  
③TEL/055-988-0705 (平日/9:00～18:00)

## プログラム

- 1 開会挨拶・施設説明
- 2 基調講演
- 3 パネルディスカッション
- 4 環境保全型企業プレゼンテーション
- 5 交流会
- 6 閉会挨拶

⑤主催：静岡県  
⑥申込・お問い合わせ：(株)シード 総務部長  
TEL 055-988-0705 (平日/9:00～18:00)

## 基調講演

企業×NGO

生物多様性保全のためにできること

企業と環境保全協会、企業への参  
画(参加)する社会貢献活動 社会等と企業との両者の健全な  
発展のため、企業×NGOの三  
角関係の働きかけを行っています。

## パネルディスカッション

企業と団体が連携するため求められるもの  
—SAVE JAPANプロジェクトの事例に学ぶ—

企業のNPOと地域連携、環境イベントによる気づきや取り組み(例)「Save Japanプロジェクト」の事例をめぐり、企業、団体が連携するメリットや、実際に取り組むためのフェーズ、手段を学びます。

パネリスト 平林 麗子氏

環境教育ジャパン(株)  
カラーチャート 常務取締役  
サステナビリティ推進グループ

国プロジェクトを支援  
し、17年かけて国策プ  
ロジェクトに発展し、  
環境貢献を推進。

パネリスト 根井 政雄氏

緑地生態系環境整備  
推進財団(公益財団法人)センター  
長

国プロジェクトに参  
画し、国策で自然  
緑地の保全活動に  
取り組む。

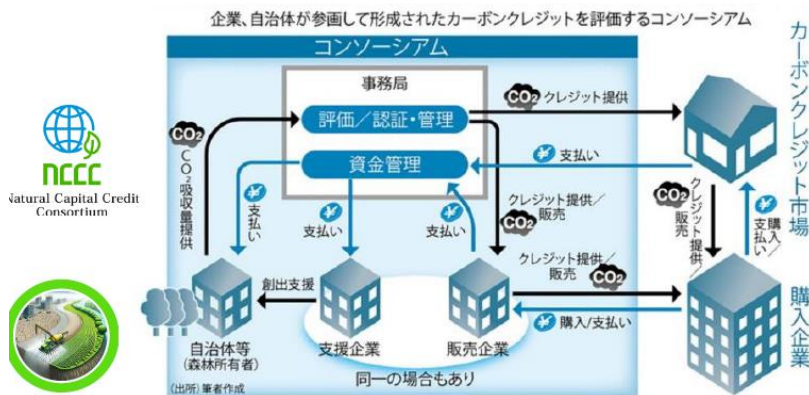
FAX申込欄 送付先/FAX:055-987-8889 (南)シード

締切 11/29

|                            |                                   |
|----------------------------|-----------------------------------|
| <p>貴社名 フリガナ</p> <p>氏 名</p> | <p>役 職</p> <p>電話番号</p> <p>メール</p> |
|----------------------------|-----------------------------------|

- 一般社団法人ナチュラルキャピタルクレジットコンソーシアム（理事長：馬奈木俊介九州大学教授、以下「NCCC」）の運営に参画、企業、金融機関、自治体など60を超える会員が強みを持ち寄って、産官学連携で自然資本の価値化や活用に取り組む。
- テクノロジーを活用して付加価値と透明性の高い自然資本によるクレジットを創出。
- 損保ジャパンは、地域のステークホルダーをつなぐハブとしての強みを活かし、地域の活性化、脱炭素、レジリエンス向上に資する、日本らしい課題解決を示し、社会のウェルビーイングの向上を目指す。

## カーボンクレジットのエコシステム（需要側・共有側）



## ユニティ・グリーン工法（辻田建機特許）を活用したクレジット第1号



衛星画像やAIを使ったサプライチェーン分析により透明性確保

詳細：NCCCが世界初の手法によるカーボンクレジット認証規約の確立とボランタリーカーボンクレジット（第一号）を認証

# CSOラーニング～木を植える人を育てる～

- 大学生・大学院生が、環境分野のCSOにインターンシップで参加。
- 2000年に開始し、これまで70以上の団体に約1400名を派遣、2019年からインドネシアでも開催。



修了生は、環境省やNPO法人、損保ジャパンに就職するなど25年間の取組みは、環境人材の育成につながっている。

# 市民のための環境公開講座

1993年に開講、今年で33年目

## 市民のための 環境公開講座 2025

テーマ  
わたしと地球の  
ウェルビーイング

特別  
講座

8/20 (水) 18:00 - 19:15

クイズで考える、  
わたしたちと生きものの未来

篠原 かをり 氏  
慶応義塾大学 SFC 研究所上席所員 / 動物作家 / 昆虫研究者

1 7/2 (水) 18:00 - 19:15

気候変動から考える  
わたしたちの食

長谷川 利弘 氏  
農業・食品産業技術総合研究機構  
農研機構農業環境研究部門  
エグゼクティブリサーチャー

2 7/16 (水) 18:00 - 19:15

日本初の脱炭素・資源循環の  
まちづくり

前田 修二 氏  
佐賀市 GX 推進課  
政策推進室長

3 7/30 (水) 18:00 - 19:15

漁業創生で目指す  
持続可能な水産資源と  
食の未来

小坂 博之 氏  
くら寿司株式会社  
広報課 マネージャー

4 9/3 (水) 18:00 - 19:15

天気予報から学ぶ  
気象と防災

早田 螢 氏  
ウェザリア 代表

5 9/17 (水) 18:00 - 19:15

身近な生きものに迫る危機  
～モニタリングサイト1000  
現地調査から見える生物多様性の変化～

福田 真由子 氏  
公益財団法人日本自然保護協会  
登山部 部長

6 10/1 (水) 18:00 - 19:15

アシックスの  
サステナビリティ戦略  
～循環型ビジネスモデルへの転換～

吉川 美奈子 氏  
株式会社アシックス  
エグゼクティブアドバイザー

7 10/15 (水) 18:00 - 19:15

森と人をつなぐ、森林浴の力

小野 なぎさ 氏  
一般社団法人森と未来  
代表理事

8 10/29 (水) 18:00 - 19:15

サステナな歓幸地の創造へ  
～GX・DX・HXを基幹とした  
“まちのこし”への挑戦～

加藤 貴之 氏  
NPO法人土浦温泉観光協会 会長  
/ 株式会社元気アップつちゆ  
代表取締役CEO

9 11/12 (水) 18:00 - 19:15

都会で楽しむ小さな循環  
～地域コミュニティと育む  
新しいライフスタイル～

たいら 由以子 氏  
ローカルフードサイクリング  
株式会社 代表取締役

「市民のための環境公開講座」は、(公財)SOMPO環境財団、SOMPOホールディングス(株)、(公社)日本環境教育フォーラム(JEEF)の3者が協働で開催する、1993年に開講し30年以上継続している歴史ある環境講座です。無料のオンライン講座として通常講座全9回および特別講座を開催します。

Japan Environmental Education Forum  
日本環境教育フォーラム

SOMPO SOMPO環境財団

詳細・申込はこちら



<https://www.sompo-ef.org/kouza/kouza2025/>

申込リンクはこちら→ <https://www.sompo-ef.org/kouza/kouza2025/>

- 指標と目標設定と計測

- 投資家との対話（TNFD開示の活用）

- 専門性の高さ

- 自然共生サイト（OECM）の企業としての活用